

南アルプスの植生の垂直分布の典型

南アルプス(聖岳等)生物群集保護林

設定目的

本保護林は荒川岳(前岳)^{あらかわだけ まえだけ}(三、〇六八メートル)周辺から聖岳^{ひじりだけ}(三、〇二二メートル)、易老岳^{いろうだけ}(二、三五八メートル)に連なる稜線の西側斜面に位置しています。

標高が一、二〇〇メートル〜三、二二〇メートルに及び、山地帯から亜高山帯、高山帯に至るまでの植生の垂直分布がみられます。

これらは、南アルプス中央部〜南部地域の典型的な植生の分布として貴重であるため、保護林として植物群落を一体的に保護しています。

地況・林況

コメツガやシラビソ、ダケカンバ等から構成される亜高山帯の植生を主体として、一部にブナ、ミズナラ等から構成される山地帯や、高山植物、ハイマツ等の高山帯の植生を含む植物群落となっています。

稜線付近は、風が強いため、樹木が生育しにくい環境でみられる風衝草原や、雪の吹きだまり周辺にみられる雪田植生等が広がっています。



タカネマツムシソウ

所在地
長野県下伊那郡大鹿村
飯田市上村・南信濃



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。